



思わぬ事態

10月12～14日・京都（明治鍼灸大学）で行われる日本・中国・韓国の3カ国協議（正式には「WHO第3回経穴部位国際標準化に関する非公式諮問会議」）の検討事項として、3カ国で使われている標準テキストで経穴“部位”を比較検討し、3カ国で異論なく決定できるものについてはその草案を作り、異論のあるものについては検討というのがメインテーマになっている。

7月25日の作業部会で“部位”の同意・非同意に関する日本案がまとまり、中国側の黄龍祥氏にe-mailで資料（Excelファイル）を添付し送り、部員一同まずは一段落という気持ちになっていた。あとは8月末に中国側が3カ国検討資料をまとめ、その草案資料を待つのみ、これで8月はゆっくりオリンピック観戦と少し余裕を感じていた。

しかし8月31日に思わぬ事態が発覚した。それは、形井委員長がWHO-WPROのDr. Choi氏と東京で会った際、「先々週、北京で黄龍祥氏に会ったら、日本からの経穴の結論をまだ受け取っていないと言っていた」ということであった。「えー届いていない!？」落胆と緊張の形井委員長。原因は不明だがパソコンのメールサーバーのトラブルか？ とにかく別のメールサー

バーで至急再送し黄氏に到着の確認を取った。大学側のセキュリティの関係で着かないのか、ウイルスチェックのソフトの影響なのか？ とにかく予想だにしていない事態！

さらなる遅れ

7月末までに、日本側の3カ国同意・非同意の検討資料を中国へ送り、8月末に中国側がその草案をまとめ（中国文）、それを9月中頃までに日本語に翻訳し、各部員が検討を加える計画であった（この間が約2～3週間）。結局1カ月遅れで資料を待つということになり、資料の翻訳・検討ができなまま10月の会議を迎える雰囲気になってきた。

落胆していても仕方がないので、日本側が提示した要検討92穴の「日本側の部位決定」について作業が開始された。第4回作業部会（9月12日）・第5回作業部会（9月23日）で、文献からの検討、解剖学的な検討、部位、取穴など一穴ずつ進めていった。

日本鍼灸会館での作業は朝の10時30分から夕方5時まで、その間1時間の休息。2日間（第4回・5回部会）で計算してみると1穴あたり6分～7分の検討時間で進めていかないと92穴終わらないことになる。やはり計画通りにはいくはずもなく、結果としてこの2日間で

92穴中37穴が終了した。これまた大幅な遅れである。委員長の意見で10月3日も再度部会を開くということで各自合意。さて最後までいけるかどうか。

10月1日、中国から草案のメール（「294個無分岐経穴定位与取穴法草案」）がやっと到着。これから草案の中国語の翻訳作業が開始された。会議まで残された時間はあとわずかしかない。

10月3日に第6回の部会を開き一気に最後までと意気込んでやったが結果は1日で17穴、トータルで92穴中54穴しか終了できなかった。あわせて翻訳作業も部員5人、翻訳の協力団体・日本内経医学会の左合昌美氏、荒川緑氏を加え合計7人で急ピッチに進められた（以上経過報告）。

検討結果の一部

非同意穴の検討の一部を紹介する。

まず順番として中府、雲門と『十四経發揮』の順に検討を加えていったわけですが、はじめの手の太陰肺経から、すでに問題提起あり！で、あっという間に時間が経っていく。「天府」「侠白」「尺沢」は古典ではいずれも「動脈」の文字を含む。ということは、解剖学的には上腕動脈の関係があるはずである。参考に資料のいくつかを開いてみる。

- ・『靈樞』本輸第二「腋内動脈。手太陰也。名曰天府。」
- ・『靈樞』寒熱病第二十一「臂太陰也。名曰天府。」
- ・『甲乙経』「在腋下三寸。臂膈内廉動脈中」
- ・楊上善『明堂』「在掖下三寸。臂膈内廉動脈手。」
- ・『千金方』「在腋下三寸。」
- ・『千金翼方』「在腋下三寸。臂膈内廉動脈。」

- ・『外台秘要方』「在腋下三寸。臂膈内廉動脈。」
- ・『医心方』「在掖下三寸。臂膈内廉動脈。」
- ・『銅人腧穴鍼灸経』「在腋下三寸。臂内廉。」
- 「在腋下三寸。動脈中。以鼻取之。」
- 「在腋下三寸臂内廉。」

なるほど、みな「動脈」が関係しているではないか。現在使われている3カ国のテキストではどうだろうか？

- ・韓国のテキスト「腋窩横紋前端から下3寸、上腕二頭筋外側縁。」
- ・中国のテキスト「上腕部内側面、上腕二頭筋橈側縁、前腋窩横紋頭から下3寸の処。」
- ・日本のテキスト（学校協会系）「上腕部にあり、腋窩横紋前端から尺沢穴に向かい下3寸、上腕二頭筋の筋溝に取る。」
- ・日本のテキスト（盲学校系）「【部位】腋窩横紋の前端から尺沢に向かって下がること3寸、上腕の前内側。【取穴】腋窩横紋の前端と尺沢との間を3等分して、上3分の1のところ、上腕二頭筋長頭と短頭との筋溝に取る。」
- ・日本のテキスト（標準経穴学）「上腕を90°外転し、雲門と尺沢を結ぶ線上で、臂膈の高さ」上腕二頭筋の外側（中国・韓国）か？筋溝（日本）に取るか？内側（新説）に取るか？この3つが挙げられる。これを単純に多数決で決めるわけにはいかない。古典でいう「動脈」とは？今の動脈なのか？などなど多くの疑問が出てくる。特別、疑問も持たず、ただ学校で習い、臨床で使っている経穴が実はそう簡単ではないということ。昭和の経穴書のいくつかの図版を見、また古典の十四経發揮の図版を見、臨床大家の書を参考にし試行錯誤の連続、そんな検討を経穴委員会ではしています。

(〒356-0031 埼玉県上福岡市中央1-6-2)